



No. 14

発行所 山形県手をつなぐ
社団法人 親の会事務局
山形市旅籠町
1丁目10番30号
山形県社会福祉会館内
TEL 山形(3)6572
印刷所 K.K. 誠文堂印刷所

山形県 精神薄弱者収容授産施設

建設の展望

本会が永い間叫び続けてまいりました「精神薄弱者の樂園」コロニーがいよいよ実現されるはこびとなりました。

前号でその基本方針を報じましたが近く社会福祉法人認可を待つて総工費約四千万円で収容棟、管理棟、作業棟などを建設する計画であります。その総工費の内訳は県補助一千万円、競輪配分金一千三百万円の交付を予定しており、残額は建設地である米沢市ならばその他の市町村の助成と、一般寄附を得て来年十月頃に着工し、四十五年春に開所する予定にして進めている。

この資金を得るために本会では家庭洗剤の『アデカソフト』三万個を県内の人々に買ってもらい、その還元金二百万円を得ることに会員は勿論、婦人会を通じて全力を尽している。建設並び開所迄には相当な準備

費が予想されますので、地元米沢市の関係者は「アデカソフト」に平行して資金かんばにのりだす計画であります。また市内の各事業所に対しましては、大口の募金も考えており将来の展望が益々あかるくなつてきています。しかし、このような資金計画は集金してみなければなんとも答えのないうようなもので一般市民の皆さんに理解とご協力を極力呼びかけています。

開所後社会復帰対策として農耕、下請仕事、家畜などに従事させたいと考えているが、これら諸事業の運営に多くの協力がないと進展されないもので、県内一円の精神薄弱者授産施設の『協力会』を結成したいと考えてい

る。授産施設「栄光園」が完成すれば全国第三番目の精神薄弱者授産施設になるわけで、今後の成行が注目されている。将来施設運営が軌道に乗れば母子訓練所をはじめ、精神弱者数百人が一生涯同施設で過せるような規模にする計画で、今度のものはコロニーの初歩とも呼ばれるもので大きな期待がよせられている。

本会の会員がただ米沢地区や県婦人会に寄りすぎるだけではなく卒先して建設に取り組まなければならぬいでしよう。近く仮称「山形県精神薄弱者福祉協会」の設立総会を米沢市で開催し、本会からも理事、評議員が数名推薦されている。

設立総会の内容は社会福祉法人化初年度の予算、事業計画などがもられており、五十五名の関係者が県内から集つてくる予定であります。

重症心身障害児

施設の成果

重度の精神薄弱と重度の肢体不自由とが複合している重症心身障害児の施設として、先年来県手をつなぐ親の会と県並び身体障害者福祉協会で県重症心身障害児施設誘致促進協力を組織して、国に要望してまいりましたが、その努力が実を結んで

米沢市松原の国立結核療養所に四十九床が実現することになりました。現在県内に四百二十名の重症心身障害児が数えられているが、在宅指導を余儀なくされているものは約三百三十一名で残りの児童は、他の収容施設に予定し、また依頼中のものであります。今秋中に四十床の収容施設が着工されるものと思いますが、その隣接地に訪問者のための仮称「いこい荘」の建設を県が考えておるようで、保護者は心強くその計画を待ち望んでいる。

「栄光園」建設に

一般募金を

「栄光園」建設資金として手をつなぐ親の会と仮称、山形県精神薄弱者福祉協会が「この子らに愛の授産施設『栄光園』を」と云う見出しで県内の一般市民に暖かい義捐金を求めている。

既に、県内PTA有志の御協力によつて三月三十一日現在で、三百六拾四万一千三百九十六円の基金で約九千坪の土地を米沢市万世町に購入

しましたが、これだけではどうにも建設にふみこむことができませんので、会員を通して県内の皆さんに呼びかけていただきたいと思います。

その募金方法、チラシは県事務局に御座居ますので遠慮なく御持参下さるよう希望しています。

また申込書を御必要となさる方はお手紙でも希望枚数をお知らせ下さいればすぐにでも発送させていただきます。すでに山形銀行米沢支店と米沢三友堂病院の職員から匿名で現金二万一千二百五十二円が贈られ関係者を喜ばせています。

り、全真的な運動へと発展し、四月にはいつて組織から組織へとエスカレートし、町内会、事業所、さらに山形支部ではピツケルとカツパの会こぶし会など若い人たちのサークルも積極的に協力、事務局をテントコ舞いさせている。各支部の運動状況次のとおり。

あり、二千個は固い。

【寒河江】 まさしく青木理事のつるの一声、婦人会が県内のトップを切つて二千百個をまとめ、配達を完了した。いま西村山四地区婦人会が動いている。推計二千個。

【北郡】 事務局が働きかけ、村山市婦人会が一千個をまとめた。現在尾花沢市婦人会が懸命に動いている。

一万五千個こえる

婦人会・サークルも協力

アデカ販売

会員宿望の精神薄弱者収容授産施設
(仮称「栄光園」)

は、四十四年秋、米沢市万世町梓山字大石山に建設される予定で、着々準備がすすめられている。

この施設建設費の一部とするため三月からスタートしたが、会員の積極的な参加と、連合婦人会、町内会さらに若い人たちのサークルも協力運動は県内全域にひろがりを見せ、スタートしてから約一カ月目の四月十日現在、注文個数は一万五千個を突破した。

アデカソフト販売運動は、仮称栄光園建設のためばかりではなく、この運動を通して、共通のなやみをもちながら、足づみしている人たちが

組織会員にしようということにも大きなねらいがある。理事会がこの運動を決議(二月五日)して以後、事務局は県婦人連盟、県社会福祉協議会に對して、この運動についての協賛を要請、体制固めを行なつていたが、二月末両者が快よく協賛を約束してくれた。

県親の会の運動は、その直後山形支部(伊藤泉会長)を皮切りにスタートしたが、山形支部の運動は異常な盛りあがりを見せ、三月末で二千個を突破、四月十日まで、三千個に達した。これは一人平均二十五個を消化したことになる。

一方地元米沢支部をはじめ、寒河江西村山支部など、各支部理事は、それぞれ連合婦人会と折衝をつづけていたが三月なかばに話し合いが実

【山形】 中村会長がトップを切り、自社の社員に呼びかけ二百六個をまとめた。まず幸先よし。つづいて会員一人で三百個、二百個とまとめる人が出てきた。まだ「全会員参加」には至っていないが、支部会員だけでは三千個に達し、五千個は確実視されている。地区婦人会は十日以後個々に参加しており注文がまとまるのは月末ごろの見込み。

【新庄】 大泉善太郎氏が市内、郡下をもれなく歩き、まさしく「足」でまとめあげた。県議、市長の協力も大したもの。十日現在注文一挙に二千六百個。まだまだ期待がもたれる

【酒田】 支部全員が一致協力、はまなし学園を基地として運動をつづけている。十日現在七百個。

協力事業所(例でん六、山形銀行山形交通、東北精機、フコク生命、山形女子高等学院、山形相互銀行等【米沢】 山形市議を中心に婦人会と折衝、協力を得たほか、現在米織各社に働きかけており、二千二百個を消化した。米織各社の注文は二十日すぎごろまとまる見込みで、四月中三千個を上まわる見込み。同支部はほかに募金運動も展開しており、地元ならではの盛りあがりを見せている。

【長井】 原理事が各婦人会に積極的

原動力は
あくまで会員

アデカソフト販売運動は、いま全県下にひろがっているが、この運動はあくまで会員自身が原動力とならなくては成功しない。「私たちの力だけではなせない」——その真の姿を見たときだけ組織が協力する。全会員の協力が強くなるぞまれる。

なお次のとおり未参加地区があり積極的な働きかけが必要。
置賜 川西・高島・白鷹・小国

・村山 天童・東根・中山・山辺
・庄内 鶴岡・東西田川郡

代金は山形相互へ

アデカソフト代金は、すべて山形相互銀行山形北支店吉田理事のもとに集約される。

同行は三月初め県下全支店に通達し「山形県手をつなぐ親の会」名のアデカソフト代金振込受領証を備えている。したがって団体、個人をとわず代金は山形相互銀行各支店に払い込み、受領証をもらえばよいことになっており、PRがのぞまれる。

第五回理事会開催

昭和四十二年第五回理事会が福祉会館第一会議室で三月三十一日開かれました。

一、報告事項

1、精薄者収容授産施設（仮称栄光園）の経過について

月岡理事（米沢）より授産施設の現在までの状況について、また設置経営のための社会福祉法人申請準備について説明、更に県民生部も積極的に推進する意向を明らかにしているとの話がありました。

2、他県の施設視察について

山村栄氏（米沢市議）より

・富山県セーナー園
などの視察結果、精薄者収容授産施設（米沢）の設置と経営に一段と強い自信を得たとの報告あり一同意をつよくした。

3、愛のひとしづく運動状況
事務局より県下小中学校より約半数校の協力を得ている報告あり、昭和四十三年度はこの運動の理解を深め一層の協力を得るため、本会役員が小中学校へ参上してお願いして実績を上げること努力しよう。などの意見が交わされた。

4、アデカソフト販売運動状況
西村山、新庄の婦人会、米沢市、山形市親の会会員などのつよい協力状況、更に今後の運動実施計画等について報告。

二、協議
1、昭和四十二年予算更正に関する件。
2、昭和四十二年事業報告。
昭和四十二年決算に関する件（会計監査を四月二十日に決定）

3、コロナー建設特別会計決算に関する件。
4、昭和四十三年事業計画案に関する件。
5、昭和四十三年度予算案に関する件。
6、役員改選に関する件。

（各支部よりの理事推薦を四月二十日必着とすること。）

7、精薄者収容授産施設（仮称栄光園）の設置経営者（社会福祉法人申請準備中）へ県親の会代表として理事評議員推薦に関する件。

次の方（敬称略順不同）が理事、評議員、監事として推薦された。

理事 五名
①中村 律
③伊藤 泉
⑤菅原 保
・評議員 一六名
①植松 正吉
③村上 義雄
⑤会田 長重

②月岡 実
④青木 友夫
⑥丹 重厚
②前田 健吉
④奥山 智一
⑥丹 重厚

第四回（昭和四十三年度）

通常総会ご案内

各会員には個人あて案内状を差し上げましたが、手落ちなどあるかも知れません。紙上をもつてあらためてご案内申し上げます。

この道の関係者の方々できるだけ多数ご出席下さるようお願い申し上げます。
一、期日 五月五日（日）
（十時より正午までの予定）

二、会場

（県民会館）
山形駅からバスで約七分

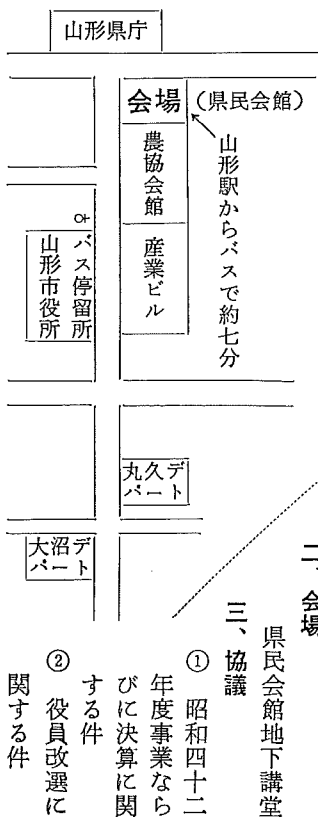
会場
農協会館
産業ビル

丸久デパート

大沼デパート

三、協議
① 昭和四十二年事業ならびに決算に関する件

② 役員改選に関する件



- ③ 昭和四十三年度事業案ならびに予算案に関する件
- ④ 他県の精薄者授産施設視察報告
- ⑤ その他

- ① 午前で終了予定(午後新旧理事會予定)でありますので昼食は各自持参すること。
- 2、下駄ばきの方のため上草履は準備いたします。

精神薄弱者 施設の現状

精神薄弱者福祉法が施行されたのは昭和三十五年四月一日で、この法律で定められたおとなの精薄者のための施設は精神薄弱者援護施設とい

うかたちがあるだけだった。昨年十月一日、法律が一部訂正され、更生施設、授産施設の二種になりようやく進歩をみ始めたのである昭和四十二年十二月一日の厚生省の調べでは、援護施設は百カ所、定員六千九百五十八人、授産施設は二カ所で定員百人、計七千五十八人となつてゐる。

しかし、この二月に発表された実態調査によると、在宅精薄者(十八才以上)は二十六万三千人おり、このうち施設入所が必要なる者は十万人を越えると推定されており、まだ施設不足の悩みは深刻である。

親の声々 第二集として寒河江市手をつなぐ親の会で文集が刊行されたことを心からお喜びしたいこの文集の刊行に尽力されたのは寒河江市親の会は勿論

「親の声」第二集

特殊学級の先生方が献身的になつて援助下さつたことが文集の中かににじみでている。「小さなよろこびは春風にのつて」とあるように人生の歩みとひろや

寒河江市手をつなぐ親の会

かな体験と厳しい戦いにもとずいた涙と悲哀と感謝がひそんでゐる共に苦しみ共に悲しむ愛の慟哭がある。素朴な装さの中に秘められた真理は無限である

(県事務局)

り、このための県手をつなぐ親の会と県精薄者福祉協会でころろみる授産施設は全国的なテスト・ケースになつてゆくのであります。もしこれが軌道にのればコロニーに発展するわけであります。

設立総会の報告

県精薄者福祉協会

理想郷「コロニー」を目ざし去る四月二十一日午後一時米沢医師会館で評議員会を開き、法人化を目的に県手をつなぐ親の会と県精薄者福祉協が一体となつて「栄光園」建設にスタートした。設立総会は設立発起人会代表として金子安一県議の挨拶につづいて県知事代理の県民主部長

激励、山村市議月岡県手をつなぐ親の会副会長の経過報告があり、長俊英県議を議長に選出して、法人化を進める為の定款の審議、理事、監事の選出を行い、会長に金子安一氏、副会長に長俊英氏、中村律氏を決めたほか、常務理事に山村栄氏、会計理事に月岡美氏、監事に鈴木忠蔵、会田長重の両氏、庶務に太田清雄理事に青木友夫、芦川正敏、佐藤佳秋、伊藤泉、高森務、橋本久蔵、菅原保後藤源、片野利雄朝倉富男各氏が選

出された。福祉協会の役員は次のようになつてゐる。理事十五名、監事二名、評議員四十名で、その内訳は理事長(会長)一名、副会長二名、専務理事一名、会計理事一名。

同設置については報道と同時にその主旨に賛同した家庭洗剤メーカーの協力申出に、県連合婦人会では全市的な販売を引受け、その還元金を施設建設資金の一部に補充することにしてゐる。

尚、本会の名称、事務所の所在地をくわしく会報にのせて皆さん方の御指導、御激励をお待ちしています。

- 一、名称 社会福祉法人 山形県精神薄弱者福祉協会
- 二、事務所 米沢市上花沢片町一、九七二一 電話 米沢③一六四〇
- 三、施設名称 栄光園
- 四、事務所の所在地

